



大隈  
甲斐  
議殿  
議殿

明治十三年十月十日

忠  
志  
道  
存  
局  
且  
欲  
事  
品  
内  
志  
道

本  
便  
上  
報  
右  
抄  
出  
送  
呈  
仕  
候  
也

以  
別  
紙  
内  
信  
之  
通  
外  
務  
卿  
ハ  
同  
旨  
令  
之  
為  
ソ

大  
字  
内  
信  
第  
四  
十  
六  
号

天  
大  
正  
十  
一  
年  
四  
月  
贈



外字内化外八十八号

録事報告

倫敦タイムズ探訪記事及び附

曾紀澤より俄国政府へ請求して俄国の特派大臣が北京へ  
派出し清俄之葛蘇リ該地に於て收るスル事項  
に係るハ真に曾侯より請はしし事一トアラガル由亦ク俄  
国にテハ素あり北京に於てスルノ原論ニシテブ  
氏ヲ派出スルニ決シ昨日則チ日氏ハ瑞西西へ向ケ  
テ發程セリ而テ夫コトニ對シテ論ヲ改ルルヲナケレハ直  
北京へ前送スルノ確説ヲ聞ケリ

此記事ハ既ニ後ニタル説ニ候得共此後ブロー氏ハ  
又ク北京へ歸リ九月十四日ニ此發程セラレ途ヲ美  
玉日寺ニ取リテ途巾一ヨリ折回セラレシモノト見ス

曾侯ハリワシヤ條約ヲ開議スルノ旨ヲ握リペートル  
ボリクハ出使シタレモ俄ニ之決意ハ好マシキ動カスレテ  
今曾侯ト再議スルモ又シ崇厚之西慶輔キキリ保カ  
タレ且ツ加フルニ曾侯ハ駐札公使ニシテ崇厚子ニ如カズ  
然レ今又俄京ニ於テ彼レト開議シ付テ益々勞苦ヲ  
覺ヘ時々ノ費サシキリ寧ハ是ヨリ派出シテ結末ヲ  
得レト但シ前項ハ表面ニ論題ニシテ北京再議ノ依テ  
起ル事ハ今ハ色々浪費スル事ノ軍費ヲ徴償セシ  
メシ為ナリ此浪費中東洋海ニ軍艦ヲ回ハセシ費用殊  
ニ多トス故ニ此償金全ク求ムルニハ今其目先キニ福清  
スル此意ハ於テスルヲ順尚ナリトセリ又シ查シ得タルニ  
今清國カ殊ニス異議ヲ鳴ラヌコルジヤ」地方ヲ清國  
ハ讓與スルハ俄京ニ於テ意モ高キレ殊ニカスガレト通

路ヲ截チ要害ニ一區トナス波ノ地帯ハ俄西ノ所リ植  
民ニ由リモ動スヘカラガレモトセリ云々有ル也

曾紀澤比奈ハ電行ヲ傳ヘタル說

其言ニ曰ク俄皇帝陛下ノ親臨ニ前ノ清使崇厚  
カ換約セシ廉ヲ貴ハ政府不可トセハ何事ニ有ル  
故ニ塔ハ再議シテ不可リ改ムルモ難キニ在ラサル  
ニ額大使ヲ罷セシハ曾侯ハ事ヲ變名而已ナラス俄  
其對シ不致ニ一ヨリ依テ彼レヲ罪セシ以テハ  
清國使臣ヲ再派スル事果シテナカルヘシト思ヒ居  
リ相出度ニ付テ我レ是ト云フ而已余東洋ハ  
我カ外務大臣ニ委任シテ妥協商議セシムヘシト  
云云使ハ過口芝罘ヨリ天津ヘ向リ去テ其ノ意ニ北京

一合テ此強弱セラト見ル

清兵員再減ス

頃ハ漢江ヨリ由リシ者ノ説ニ因テ武昌ニ城内外  
兵員尚ホ六千人ヨリ北方進取之船舶ヲ待テ居  
ルトアリ

鉄一廠ヲ新設スルノ説

東三省ニハ従前軍械局之開設ナシ然レド近々盛  
京ニ後方ヲ興設スルノ計決アリ或ハ魯國省  
が起見ニ傳ハル  
右仍回報ニ任候也

存稿

明治三十三年ナリ也

兵部省ノ為メ

井上外務大臣殿